

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は意識付けし、いつでも見られるように壁に掲示している。地域の一員としての意識を持ち運営している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍前には地域行事にも参加し、地元中学校にて認知症サポーター講座を開催したり、職業体験の受け入れなどしていた。		コロナ禍が落ち着いたら、再開することを希望しますとのことでした。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流という点では、地域行事に参加するなどしている。項目2で述べたように地元中学校にてサポーター講座を開催し職業体験の受け入れをおこなっている。	/	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍前にはホームでの会議を開催し、コロナ禍においては電話にての報告、議事録を作成し、意見をもらっている。3年、集まりがなく運営推進会議メンバーに再度啓もう必要があると思う。	コロナ禍でもあり、家族の参加が難しかった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事があれば上司を通じて対応しているが、事業所独自で連絡を密にとっている状況ではない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束について理解している。居室足元センサーのみ使用しているが、その際はご家族に説明、同意を得て、毎月適正であるかをカンファレンスで話し合っている。	ほぼできている状況。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加、伝達も行き防止に努めている。不適切ケアについての報告を毎月提出し、職員それぞれが振り返り、虐待防止に努めている。	/	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などを通じ学び、実際に利用者の生活状況を踏まえた上で理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には内容を利用者ご家族と一緒に確認し、入所後も都度、質問には答えることが出来る状況を作っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを毎年行い、結果を家族に届けている。運営推進会議やその他随時、要望等反映させている。	ほぼできている状況。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員満足度アンケートや個人面談による聞き取りなどおこなっている。カンファレンスなどを通し、意見や提案ができる環境を提供している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	考課制度など、評価もわかりやすくなっている。それぞれ職員が得意なことで実力が発揮できるような工夫も取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパス制度を通し、職員個々の力量に合わせ、さまざまな研修が受けられる仕組みが確立されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍以前は外部研修参加など交流もあったが、今はそういう交流も途絶えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にも、本人の関わっていた医療や介護サービス、ご家族などから情報を得て、本人を理解し、安心して過ごしてもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前には、家族との面接もおこない、不安なこと、要望等を聞き出せるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階には、どんな支援が必要なのかと言う事は見極められていると思う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人が”できること”に関して高い意識をもって考えています。暮らしの中で役割を持ってもらうことを重要なことと思ひ努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とはいろいろな場面で相談し、報告しながら、ケアのヒントになるような情報をもらったりしながら、協力体制を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以前は個別外出行事などを活用し、入所前に働いていた会社に訪問したり、旧友の訪問も受けています。	コロナの制約はあるが、家族との面会はほぼできている。面会不可時の窓越しでの対面や電話の取次など、十分に対応してもらっている。	コロナ後は自宅に時々戻れるなどなればよい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の相性なども観察し、上手く介入しながら、関わりをもち、過ごせるように援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス提供が終了した方との関係を継続していくことはあまりないが、退去後にも連絡をもらうことはある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位の意向にできるだけ添えるように、個別の対応などもおこなっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の聞き取り、入所後はコミュニケーションの中でもさまざまな情報を得るように努めており、それをサービスに活かせる努力をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり、自分の自由な主張がある程度通るような環境であります。時間など、強制はしないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、家族から十分に聞き取りをおこないなおかつ、受けていた医療や介護サービスなどからも情報の提供を受け、プラン作りにかかっている。	ケアプラン作成時には電話で内容の説明と確認をして頂いています。十分にできていると思います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録し、申し送りによって情報共有している。職員間では気が付いたところはすぐに話し合えるような環境づくりを心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今は、外部の資源など特に活用できていないが、利用者やご家族の希望で柔軟な支援ができる体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍以前は町内会とも交流をはかり、行事(敬老会や文化祭、夏祭り)などにも参加していた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、ご家族の希望やニーズを十分に聞き取り、個別に望むような医療を受けられる体制は整えている。	充分にできている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護職はいないが、併設の訪問看護ステーションと連携をとっており、週1回の健康チェックをはじめ、特変時にはすぐに相談できるような体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院の際は、病院側相談員と密に連携を取り、ご家族との連絡、医療職との情報交換を常に取れるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、一旦ご家族の意向をうかがっているが、実際に重度化、終末期になった段階でも、その都度、医療、看護と連携しながら対応している。	充分にできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急講習の受講や急変時対応の研修などを定期的を受けている。訪問看護と連携したマニュアルも活用している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、定期的な避難訓練を実施している。コロナ禍以前は実際に消防署の方と、地域の方にも参加してもらい実施していた。	ほぼできている状況。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアについてのヒヤリハットを提出し、職員間で人格の尊重やプライバシーの確保は常に気にとどめている。	ほぼできている状況。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活においては、本人の思いや意思は出来る限り尊重し、自己決定できるように働きかけ、支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や、食事の時間、入浴など、希望に添えることはできるだけ添うように支援している。また、そのことがある程度可能な環境である。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせ、服装や持ち物などに気を配り支援できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍以前では、食材の買い出しに一緒に出掛け、食材を選んだり、献立を考えながら下ごしらえをおこなったりしていた。	感染症の流行中、出来ないのは仕方ない事と思います。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や、栄養バランスはもちろんのこと、好みや形状などについても言語聴覚士などと連携し、個別に対応できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い、訪問歯科による指導の下、口腔内の清潔意地に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や動き、様子を常日頃より観察し、個別にパターンを把握し、取り組んでいる。	ほぼできている状況。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に関しては、水分や食べるものの工夫をしている。また、訪問看護との連携により、腸動の様子もみてもらい、参考にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	事前に声をかけて、利用者の希望を優先するように努めているが、ある程度、全利用者のバランスを見ながら、日程は決まってくる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の様子や、生活習慣に合わせていけるように支援している。タイミングよく声掛けできるように務めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は把握している。薬局とは連携が取れており、様々なことについて相談できる関係は保っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯ものたたみや、個別のレクリエーションをおこなっている。コロナ禍以前は、外出やドライブなども状況に応じ、個々に対応もできていた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、外出はできていない。以前は馴染みの場所や行きたい場所、買い物などに気軽に出かける環境はあった。	コロナ禍の現状においては外出できないのはやむを得ないと思う。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状況を確認しながら、家族の理解のもと、お金を所持している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、その都度電話をしたり、手紙を書いたりなど、支援できる体制はとれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけをしたり、写真などを掲示している。車いすなど移動がしやすい配置を心掛けるとともに、自立歩行の利用者の安全にも気をくばっている。	いつもきれいにしておられると思う。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者に合わせて、随時テーブルや、椅子、ソファの位置などを変えたりして、心地よく過ごせる居場所としての工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのものや、大切にしているものは持ってきてもらうように案内している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の能力に合わせて、配置を考えたり、物の置き場所を工夫したりして対応している。		